

シリーズ多面的機能支払 熊野・御浜・紀宝

～私たちの思い、そして伝える100年先へ～

いさと
Vol.13 五郷環境をまもる会(熊野市五郷地区)の軌跡

多面的機能支払
熊野・御浜・紀宝



【インタビューの様子】

分担して、各組織の代表を務めることになりました。僕が住む区の区長は多面の代表を務めるという役割だったため、後に区長となった僕が現在の代表を務めています。

——集落全体で取り組むしくみは継続性がありますね。

西久保 — 組織運営の観点からみると継続性はあると思います。五郷地区には、水路が13路線あり、各水路系統ごとに共同活動を行っています。農業を営むにあたり、用水の確保は重要なことです。多面の活動を集落全体で取り組むしくみができていることで、五郷地区全域で農業を営む環境維持を公平に行うことができます。

集落全体で農業を守りたい
五郷で暮らす 自然とともに



代表
西久保 望さん



——水路系統ごとの取組内容について教えてください。

西久保 — 用水は、地区を流れる大又川と谷から取水しています。水路の総延長は18kmもあります。どの水路も延長がとても長く、山間を流れている(写真1)ため、大雨時には、土砂が流れ込み、その撤去が大変です。足場も悪いので、危険な作業です。

——特に大雨が降る時期は、水路の管理が気がかりですね。

西久保 — 大雨が降る時期は、農業において用水が必要となる時期と重なります。雨が降るたびに、水路に土砂が溜まっていないか気になります。

中山間地域では、自助・共助・公



【山間を流れる延長が長い水路(写真1)】

——美しい里山を守り、次の世代へつなぐべく——
多面的機能支払交付金を活用し、故郷の暮らしを守る活動組織の多様な取り組みは、100年先の地域での暮らしへとつなげるための足跡となっている。本誌では、活動組織の地域に対する思い、今後の展望についてインタビューするシリーズ企画。今回は、熊野市五郷地区で活動する「五郷環境をまもる会」の西久保さんにお話を伺った。

五郷地区は、石垣がとても美しい。棚田のような田んぼも丁寧に手入れがされているのがわかる。集落は、山々に囲まれ、その自然が持つ空気感に圧倒される。

また、五郷地区は熊野市内で移住者が増加している地区だ。人々が暮らし維持してきた農村風景とその壮大な自然の力は、移住者を引き付ける魅力の一部なのだろう。

令和4年度に開催された「第3回熊野地域のつどい」において、活動15年継続を称えた「長期活動表彰」を受賞している。代表の西久保さんにお話を伺った。

——2年前、長期活動表彰の際に、「耕作放棄地を減らしたい」という意気込みをお聞きしましたがいかがですか。

西久保 — 現在、地区の約3分の1程度が耕作放棄地となっています。僕は、兼業農家なのですが、息子とともに約1.5ヘクタールの農地で農業をして

■取材を終えて

平成19年度の設立当初から、集落全体で取り組むというしくみを築いてきたからこそ、現在に至るまで長期にわたり活動が継続し、地域で農業を営む環境も整っていると感じた。今後ますます人口減少が進むなか、集落全体で取り組むような広域化を進めていくことが農村維持活動を継続していくための一つの手段となるだろう。農業の多面的機能が農村で暮らす私たちの豊かで実りある暮らしにつながっていることを伝えることの大切さを改めて実感できた。



取材：三重県熊野農林事務所 山口、西崎 熊野市役所 橋本 御浜町役場 大谷(令和6年10月)
問い合わせ先：熊野農林事務所 農村基盤室 農村計画課(0597-89-6128)

——今後の目標について教えてください。

西久保 — 荒れた農地を指さして「あんな風景はこれ以上増やしたくない」と思っています。耕作放棄地が増加することは、景観の面だけでなく、地域で農業を営むうえで、被害の増加や用水管理の非効率な環境を生み出すことにつながります。なんとか、もうひと踏ん張りしたいです。

——今後の目標について教えてください。



【「第3回 熊野地域のつどい」での表彰の様子(右前が西久保さん)】



組織名	組織設立年	活動面積	活動メニュー
五郷環境をまもる会	平成19年	900a(田)	農地維持支払 資源向上支払(共同) 資源向上支払(長寿命化)